LIBRARY NEWS

（図書室だより）

令和８年 10 月 ２日 No.6
新座市立第三中学校
校 長　近藤 章宏
図書整理員 名本 浩子

蝉の合唱に替わり、虫たちの合唱の出番です。合唱祭に向けて練習する、みなさんの歌声も心地よいですが、秋の夜長は、虫の声を BGM に、読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

さて、今年は 9 月 25 日が中秋の名月でした。流れゆく雲の合間から、ほぼ満ちた月を、かろうじて見ることができました。



わたしたちは、日常で、「満月」や「十五夜」、「三日月」という言葉を使ったり聞いたりしますが、それ以外の月の満ち欠けによる月の呼び方も なかなか風流です。

十五夜の次の「十六夜（いざよい）」、１７日目の月「立待月（たちまちづき）」。月が昇るのがだんだん遅くなり月が出るのを立って待つのは大変だから、家の中で待つ１８日目の月「居待月（いまちづき）」。もっと待ちくたびれて寝て待つことにする１９日目の月「寝待月（ねまちづき）」。半円の月の「上弦の月」や「下弦の月」。

先日、コミック『税金で買った本』（原作/ずいの、漫画/系山冏）をドラマ化したテレビ番組で、「十六夜」の次の「十七夜」は、「じゅうしちや」と読むのかという疑問をもった主人公が、「十七夜」の読み方を『難読漢字辞典』で調べる場面がありました。

普通に読めば「じゅうしちや」ですが、実は「かなぎ」や「かなき」という、どう頭をひねっても出てこないような難読漢字。不思議な読み方を持っていることを知りました。音読みではなく、ひらがな標記の柔らかい響き。日本ならではの和の趣を感じさせる読み方だと思いませんか。

「かなぎ」という読み方の由来は、神を迎えるために、神事で薪としての神木（かなぎ）を焚（た）いて祈りを捧（ささ）げた風習から、「十七夜」そのものを「かなぎ」と呼ぶ訓読みが定着したという説や、神様の言葉を人々に伝える役割を担っていた巫女（みこ）や神職を指す「神凪（かんなぎ）」という言葉が「かなぎ」へと変化していったという説など、諸説あるようです。

『税金で買った本』は、小学生ぶりに図書館を訪れた石平くんが、図書館でアルバイトすることになり、図書を愛してやまない仲間と仕事をしていくうちに成長していくという図書館お仕事漫画です。借りた本を破ってしまった時は？難しい漢字の読み方を調べたい時は？廃棄（はいき）した本はどうなるの？など、楽しみながら図書館のことを知ることができます。原作コミックの人気エピソードを収録したノベライズ版も、講談社から出版されているので、三中の図書室に入れたいと思います。そのときには、またお知らせしますね。

新着図書のご案内①
月の美しい秋に月にまつわる本を読んでみませんか

『君と 29.5 日の月夜を何度でも』
清水 晴木/著　（スターツ出版）



月の満ち欠けとともに生まれ変わる少女と、そんな彼女をずっと愛すると誓う青年の究極の愛の物語。

失恋した人々が過去の恋を向き合い、新しい一歩を踏み出していく物語。

『月がきれいな夜に、誰かに思い出してほしかった』
川代 紗生/著　（サンマーク出版）



主婦の涼子は銀座で知り合ったバーのママと昔の恋人を探す旅に。

道中で様々な事件に巻き込まれながら、名作文学の知識をヒントに謎を解いていく。

『月夜行路』『月夜行路 Returns』
秋吉 理香子/著　（講談社）



新着図書のご案内

読書の秋

秋分の日が過ぎ、これから日々夜が長くなっていきます。そんな秋の夜長には、やはり読書がおすすめです。

まず、「読書の秋」ということで、これを読んだら、本を読みたくなったり、書店に行きたくなったりするような本を紹介します。

『自由に、気軽に！本と仲良くなれる本を楽しむ教科書』

大島 梢絵/監修 （ナツメ社）

写真やイラスト満載！

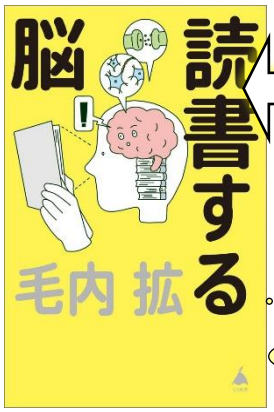


読書に苦手意識がある、何を読んだらいいかわからない……そんな人に向けて、本との出合いと楽しみかたや自分に合う本の見つけかた、小説のおもしろさなどを紹介。

とり上げられた本の数は、２７７冊。きっと「読みたい」と思える一冊が見つかるでしょう。

『読書する脳』

毛内 拡/著 （SB クリエイティブ）



ページをめくって文字を追うたび、物語に没入するたびに、わたしたちの脳内では、静かな、しかし豊かな変化が起きているという。

読書がいかにして集中力を高め、記憶力を向上させ、疲れた脳を回復させるのか。共感力を高め、創造性を育むのか。そのメカニズムを、わかりやすく解説する。

「読書ってやっぱりすごい！

『書店に行くとだいたいイイコトが起こる』

杉浦 正人/著 （草思社）



「書店には人生を少し楽しくする力がある」ということを、書店員の目線から正直に伝えたい。そんな筆者の願いがたくさん詰まった一冊。

“書店員１日の仕事密着!!すごろく”や“読書レベルをチャートでCHECK!”など、楽しい特設ページにもご注目！

読み終えたあと、ちょっと本屋に行ってみようかな」そんな気分になるかもしれません。

『本のある場所を訪ねて』

南陀楼 綾繁（なんだろう あやしげ）/著 （教育評論社）



始める楽しさと続ける難しさ「独立系書店」、小さいからこそ出せる本がある「小規模出版社」、まちの本屋、地方出版、そのほか、本を残し、次代に伝える活動など、“本のある場所”を訪ね歩き、その地域に生きる人たちの声を聞いた７年にわたる記録。

思わず手にとって読んでみたくなる！

興味をそそるような本のタイトル

『ネタバレあり 双紋島の殺人』

下村 敦史/著 （光文社）

ゲーム『人の財布』を書籍化



巻頭に書かれた７つのネタバレ。常識が崩壊する禁断のミステリー

『あたしがわたしじゃなくなれば』『人の財布～高畑朋子の場合～』

汐見 夏衛/著 （一迅社）

第四境界/著 （双葉社）



14 歳の二人の少女がある日突然入れ替わった。

欲しかったものを手に入れたはずだったが、自分の想像していたものとは違っていた……



フリマで買った財布には、レシートのほかに、弁護士の名刺、保険証まで入っていた。

『メロスはなぜ裸だったのか 教科書の隅をつつく』

成田 龍俊/著 （幻冬舎）



中学校の教師だった著者が、国語の教材を独自の視点で読み解く。

叩くとピコって鳴るアレ

『絶対に見たことがあるアレの正体、聞いてみた』

井上 マサキ/著 （大和書房）



人生が変わるテクニック１１２個集めました

『科学的に証明されたすごい習慣大百科』

堀田 秀吾/著 （SB クリエイティブ）

